

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192200038		
法人名	株式会社 名水		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	虻田郡京極町字川西101番地12号		
自己評価作成日	平成31年3月19日	評価結果市町村受理日	平成31年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani?true&JijyosyoCd=0192200038-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成31年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が心地よい生活ができるということを第一とし、理念に沿ってサービスを提供できるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境のなかにあり、広い敷地には畑やしらかば林があり、季節の野菜を育てたり、収穫を楽しんだり、味わったりしています。利用者がゆったりと安心して過ごせるよう、事業所の理念を職員に伝えています。長く勤務している職員が多く在籍していますが、開設9年目である今期、2階のユニットを閉鎖し、1階1ユニットへの転換を行いました。このことにより、職員を集中することができ、利用者一人ひとりの個別ケアのさらなる充実を目指した取り組みを開始しています。

利用者の居室には、使い慣れた家具が配置されています。晩酌や趣味の手芸などの継続ができるよう支援を行うなど、入居前の生活が継続できるよう検討しています。また、居室が利用者にとって安心できるプライベートスペースであることを踏まえ、身体状況の変化に合わせて模様替えも支援しています。居室内の利用者の動線に合わせ、伝い歩きできるように家具を移動し、転倒を予防するなど、細かな変更を随時行っています。また、時計や掲示物を低い位置に配置するなど、利用者の目線の高さや生活スタイルを考慮しており、利用者重視の姿勢が伺われます。シャンプーや柔軟剤を利用者の好みに合わせた香りの物を用意するなど、利用者個々の好みや嗜好も大切にしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	●	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	●	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	●	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	●	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	●	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	●	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	●	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	●	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	●	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	●	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	●	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を理解し、共有しながら日々実践に努めるよう努力している。	事業所開設当初からある理念を、玄関や事務所に掲示し、職員全員で共有しています。利用者が不安な気持ちの時は居室で職員が一对一で話をしたり、個別支援を手厚くするなど、安心して暮らせるように、理念を実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し、地域と密着していけるよう町内会長を始め社会福祉協議会にお願いしている。	町内会に加入し、回覧板などを通じ、地域活動の情報を集め、行事に参加しています。町内会や社会福祉協議会に協力を依頼し、地域とのふれあいの機会を持つようにはしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方と散歩や買い物で地域の方々との接点を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議をし、町内会長・役場・社協・民生委員等の意見や連携・協力を得ている。	年6回、役場、社協、町内会長、民生委員などが参加し定期的に行っています。参加者から質問、意見、要望を受け、事業所側が運営状況を説明するだけではなく、双方向な会議となるようにしています。	運営推進会議への家族の参加が望まれます。議事録を家族に送付するなど、参加に向けた努力をするとともに、遠方に住んでいる家族等が運営推進会議に出席できない場合でも、意見や要望を反映できるように努めてください。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やふるさとネットワークで情報やアドバイスをいただきながら取り組んでいる。	保険者が広域連合であるため、町役場と連携する機会は多くありませんが、運営推進会議などを通じ、事業所の情報や利用者の暮らしぶりを伝え、関係を維持しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全体が理解し、日々取り組んでいる。(玄関は夜間のみ施錠している。)	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月に一度開催しています。虐待防止研修や身体拘束及び虐待についてのアンケート調査を行うなど、職員の意識向上のために努力しています。日々のケアの中で、不適切と思われる行為は、その都度注意しています。	身体拘束廃止に向けた指針を作成してください。指針の中に、事業所として身体拘束の対象となる具体的な行為を定め、職員で共有することが望まれます。身体拘束廃止に向けた、外部、内部での研修の実施に努めてください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長・管理者が虐待防止への見本となり日々防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターがあり、必要な時直ぐに対応できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安・疑問を聞き、十分な説明をし、理解・納得を得たうえで書面での契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や要望などが話しだせる機会や環境づくりに取り組んでいる。	家族の面会時に、利用者の現状を説明すると共に、意見や要望をもらうように努めています。利用者の三分の一は意見を表明することができ、得られた要望や意見を業務日誌に記録し、職員で共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いをしたり、会議で職員の意見や提案を聞き、反映するよう努めている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くように心がけています。また、事業所の利用定員の変更に伴い、事業所の運営方針を説明し、職員の運意見聴取を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、職場の環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得のための研修を受けてもらい、職員の技能向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	勉強会があった場合は、職員を受けさせるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に情報収集・共有をし、要望を聞きいれ安心していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見に耳を傾け、要望や希望を聞き良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としているサービスをいち早く認識し、素早く対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念と基本姿勢を基に、共に共感しあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族がいつでも交流できる雰囲気づくりをし、関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋や美容室、入居前から利用していたスーパーに行くことを支援している。	入居時に確認するだけでなく、家族の面会時に利用者とのつながりや背景について聞くようにしています。馴染みの床屋や美容室、スーパーへの買い物などを通じて、関係継続の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が生活をしていく上でコミュニケーションを図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば、環境を整えて大切にしていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向を聞き入れ、サービスを提供するよう努めている。	日々、何気ない言葉から意向の把握に努めています。不安な気持ちの時にはできるだけ傾聴し、気になっていることが何なのか検討しています。得られた意向は申送りノートに記載し、職員で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報を収集・把握し、サービスに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の心身状態を察知し、それに対応できるよう努めている。毎朝のミーティング等で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見・要望を反映した介護計画を作成するよう努めている。介護記録に介護計画を載せ、いつでも確認できるようにしている。	職員が日々の介護の中で気になることを付箋に記載し、施設長が取りまとめて介護計画を作成しています。また、利用者の自立につながる取り組みが計画に記載されておらず、実施記録のみとなっています。モニタリングの方法を標準化するために、社協の指導を受ける予定になっています。	介護計画の意義や見直しまでの一連の流れについて知り、職員も参加していくことが望まれます。自立につながる支援を行っていても、計画に位置付けがない場合もありました。アセスメントやモニタリングの時期、方法を明確化し、利用者や家族の要望を反映した介護計画を作成し、日々の介護を実施していくことが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性を理解し、介護計画の見直しに活かしている。日々の状態を記録し、毎朝のミーティング等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の訪問や、本人の外泊・外出または通院・買い物等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣との交流があり、町内会のイベントに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を利用している。家族が来園された際等に、最近の様子と共に受診内容も報告している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診しています。遠隔地の専門病院への通院は家族に対応してもらっていますが、透析などを含め、近隣への通院は事業所職員が同行しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一の訪問看護時に個々の状況を報告し、適切な受診を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係者との情報交換や相談をし、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針を本人や家族に示し、同意をいただいている。(医療機関とチームで支援できるよう取り組んでいる)	地域の医療機関での緊急時の連携などを考慮し、事業所では看取りは行わない方針であることを説明しています。利用者や家族の重度化した場合や救急救命などについての意向を確認しています。重度化した場合、利用者にとって最も良い環境を提供するために医師と家族を交え、病院や介護施設への移行を含めた話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網やマニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、定期的な避難訓練での確認や、消防署の指導・アドバイス等をいただき協力体制を築いている。	火災や原子力災害のマニュアルを作成しています。本年度は昼間台所の出火想定での訓練を1回行っています。自家発電機を備え、停電への備えができています。食料の備蓄は1週間分あり、水は近隣の湧水が利用できます。	利用者の安全確保のため、年2回以上の訓練を実施し、訓練には職員全員が参加できるように配慮してください。また、避難訓練だけではなく、職員の呼集訓練や原子力災害などの想定を取り入れ、非常時の備えとして行うことが望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりをよく理解し、自尊心を傷つけない対応をするよう心がけている。	職員は、人生の先輩として利用者の人格や尊厳を損ねないように、声掛けに配慮するようにしています。不適切なケアがあった場合は、その都度注意を促すようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表現できるような関係づくりに努め、自己決定できるような問いかけや声かけをこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活の上での時間の取り決めはあるが強制はせず、個々の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の床屋・衣替えの時期に買物等、おしゃれが楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望に対応し、見守りにて利用者主体で調理する機会がある。 食後は職員と利用者が一緒に片付けを行っている。	メニューは季節感や彩りを大事にしています。利用者の希望を取り入れ、決めるようにしています。職員は、利用者と同じ物に出かけることもあります。冬季以外は月に一度程度、回転寿司など利用者の希望で外食を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのよい食事や水分を提供できるよう心掛け、食事の順番等個々の状態に合わせる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに努め、できないところは介助支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見たトイレへの声掛けや、気持ちよく排泄していただけるよう、本人のプライドを傷つけないよう心がけている。	利用者の様子や一人ひとりの排泄の記録を基に、トイレへの誘導を行い、自立排泄の支援をしています。おむつを使用していますが、夜間も時間を見て誘導しています。声掛けの際には羞恥心や自尊心に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や乳製品の摂取に気を付け、廊下の往復運動の声かけ等、なるべく自力排便し、下剤に依存することのないよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	自立度の高い方には見守りのみだったり、希望される場合には温泉に行ったりと一人ひとりに合わせた支援をしている。	朝バイタル測定を行い、体調をみながら週2回入浴できるようにしています。また、要望があれば、随時入浴の支援を行っています。入浴の順番や温度など、利用者の希望を汲み取っています。利用者のそれぞれの好みで香りの良いシャンプーを使用するなど、入浴の楽しみを演出しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にいられない方はリビングで休んでいただくようにしている。 居室にいる際は静かな環境で休息していただくよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬の情報を確認しあっている。薬に変更があった場合、ノートや業務日誌で情報共有している。 症状に変化があった場合、訪問看護や受診時に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをとりながら、日々の生活の中で楽しみを見つけ出し、気分転換を図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、見守りや付き添いにて支援する等、出掛けられるよう努めている。	日常の散歩やちょっとしたドライブなど、利用者の希望があれば、天候や体調を考慮しつつ、外出を支援するようにしています。利用者の散歩は事業所の広い敷地や、周辺的生活道路からも山並みや白樺の木立などをの景色を楽しむことができます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には本人持ちの財布や金銭を管理していただいている。 出来ない方は、家族の方の意向も聞くが、なるべく本人の希望を優先し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけられるよう職員が支援している。耳が遠い方場合は職員が間に入って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の飾りつけや、過剰にならないよう刺激の少ないように飾り付けをし、居心地よい空間になるよう努めている。	季節の飾りつけを積極的に行い、季節感が感じられるようにしています。居間のソファは、利用者同士が会話しやすく、また、テレビが見やすいように配置しています。利用者は昼間、居間にいることが多く、思い思いの場所でくつろいでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で居室の行き来があり、職員が見守りできる死角の空間を作り、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく慣れ親しんだ家具を持ってきていただくよう家族にお願いし、環境が変わっても安心して過ごしていただけるよう支援している。	利用者の使い慣れたものを持ってきています。利用者が見やすいように、時計や掲示物を低い位置に取り付ける工夫をしています。部屋の備品は、利用者の身体状況に合わせ、移動の際の補助になるように配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花の手入れ・カーテン開閉・カレンダーを配置し、月終わりにめくって頂くなど一人ひとり出来る事を活かせる支援をしている。		